

農業人 坂尻ハジメ

農業を始めるに当たり、まず考えたのは屋号です。100語位は出したでしょうか。結局、みんな〇〇農園などと付いているので止めました。

いわゆる脱サラ。環境アセスに捕鯨船と好きな様に歩んできました。やはり辞めるときはすごく悩み、父親に相談しました。その時の父の一言、「サラリーマンで人に裏切られるより、農業で自然に裏切られる方が良いんじゃないか。」何か納得し決意しました。そして、何のために農業していくのか、その答えを見つけないために続けるのも一つなのではないか、そう思ってこれまでやってきています。

食べ手は、自身に「合う」野菜を見つけ出すことが大切だと思いません。

僕はただただ丁寧に美しく、美味しく楽しい時間を過ごせるような野菜作りをと思っています。



家族3人、柚野の富士山が一番きれいに見える圃場にて

(2015年5月 記)

農業人 坂尻ハジメ 坂尻 啓

就農:平成21年4月 畑の場所:富士宮市 上柚野

栽培面積:畑1ha 栽培作物数:100種類

主力作物:ナス、ピーマン、ミニトマト、ニンジン、大根、ゴボウ

連絡先: hiernie6@yahoo.co.jp



「堆肥 動物性と植物性」

有機農業といえば、有機質肥料を畑に施すのが、普通の感覚でしょう。

その有機質肥料と同義語で堆肥とも言います。その堆肥の意は、「有機物を微生物によって完全に分解した肥料のこと。」となっています。ただ、これも正確ではなく、堆肥は、国の定めた定義では、肥料ではなく、土壌改良剤となります。これは、肥料養分の濃度が低く、繊維質が土壌条件を改善することの方が主であるからです。

さらに堆肥と言えば、家畜(牛、豚、鶏、馬)糞尿由来のものをまず最初に思いつく方が大半でしょう。

正確には、これらは厩肥(きゆうひ)といえます。読んで字の如しです。

その他に有機質肥料といえば、米ぬか、油粕など植物など人間が主利用した後の残りを利用したもの一般的なです。例を言えば、お米を精米したのちの米ぬかということですが、

ここまで書くと色々な言葉が

出てきて整理がつきにくいと思います。今更ですが、ここで、やっとお題目に入ります。

動物性堆肥⇨動物性有機質肥料、植物性堆肥⇨植物性有機質肥料の違いですが、有機農業の正解という動物性とは、動物由来の糞尿、そのものの血肉、骨などからできた肥料を指します。

なので、牛、豚などはもちろん、魚、変わったところではこもりの糞などがこれにあたります。一方、植物性とは、植物由来の植物の種、亡骸を指します。具体的に言えば、米ぬか、油粕、昆布、おがくず、野菜残さなどになります。

最近これらを分けて表現するようになったのは、意識の高まりで、家畜のえさに遺伝子組み換えの餌が入っていたり、抗生物質を投与したり、BSEの廃棄物を肥料としたりといった問題などがあり、それらを意識したいといった消費者のニーズなどのためです。

(なごみ農園 宮田雅和)